

コレクチム® 軟膏の使い方と注意点

監修：NTT東日本関東病院 皮膚科 部長 五十嵐 敦之 先生

医療関係者用

- コレクチム軟膏は、アトピー性皮膚炎の症状を緩和するための軟膏剤です。
- 次のような方は医師、薬剤師にお伝えください。

- 皮膚に感染症があると医師から診断されている方
- 妊娠している方、授乳中の方

コレクチム軟膏の使い方

- 成人の場合、0.5%製剤を1日2回、患部に適量を塗ります。
1回に塗る量は5g(チューブ1本)までです。
- 小児の場合、0.25%製剤を1日2回、患部に適量を塗ります。症状に応じて0.5%製剤を1日2回、患部に適量を塗ることができます。
0.5%製剤で症状が改善した場合は、0.25%製剤に切り替えることがあります。
1回に塗る量は5g(チューブ1本)までですが、体格を考慮してください。
- 1回に塗る量は体表面積の30%までを目安とします。
- 製剤の選択や薬を塗る部位については医師・薬剤師の指示に従ってください。



大人の人差し指の先端から第一関節まで出した量が約0.5gです。この量を「1FTU※」といいます。

※ FTU : Finger tip unit



1FTUで、大人の手のひら2枚分くらいの面積に塗ることができます。
患者さんの手のひら1枚分の塗布量が、おおむね体表面積の1%への塗布量になります。

医師、薬剤師の指示に従って使ってください。

過去に、この薬に含まれる成分で過敏症のあった方は使用できません。

● コレクチム軟膏を使用中に気をつけていただきたいこと

- 皮膚の傷やただれ、アトピー性皮膚炎以外の炎症や感染症のある部位には塗らないでください。
- お薬が粘膜(眼や口、鼻の中など)につかないようにしてください。
- 万一、眼に入った場合は、すぐに水で洗い流してください。
- お薬を塗ったところに赤または白の小さな吹き出物や、ニキビができることがあります。気になる症状があらわれた場合には、医師または薬剤師に相談してください。
- 他の医療機関を受診する場合や、他のお薬を購入・処方される場合は、コレクチム軟膏を使用していることを医師または薬剤師にお伝えください。

● チューブを開ける際の注意



チューブのフタの裏の突起で強く押し込んでください。
押し方が弱いとチューブの口が十分に開かず、適量を出せないことがあります。

● 保管方法

- 直射日光を避けて、室温(1~30℃)で保管してください。
- 子供の手の届かないところに保管してください。

コレクチム®軟膏の作用

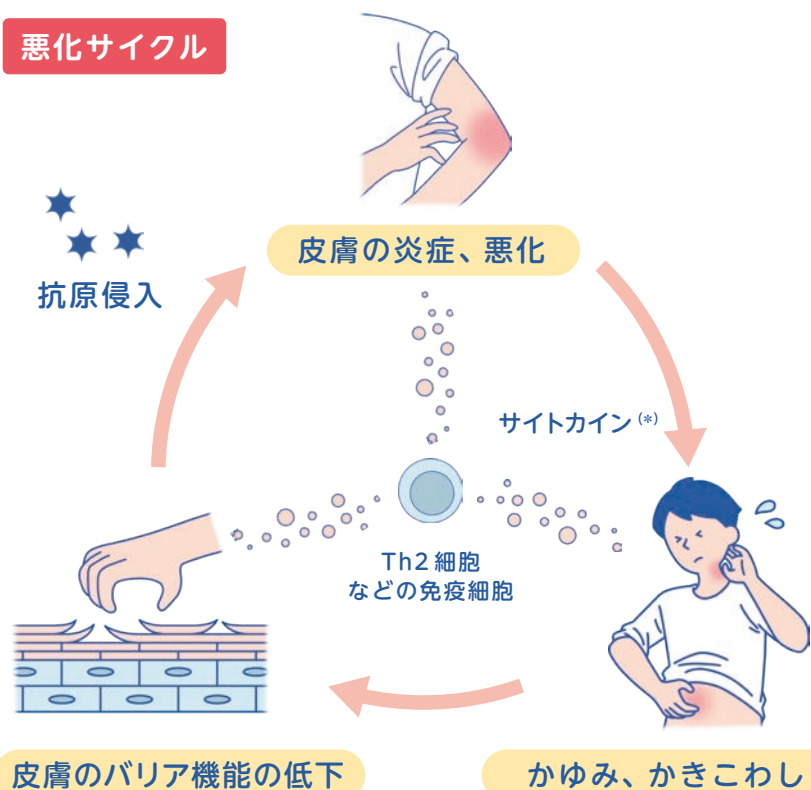
監修：NTT東日本関東病院 皮膚科 部長 五十嵐 敦之 先生

医療関係者用

アトピー性皮膚炎の病状

アトピー性皮膚炎は、「皮膚バリア機能の低下」と「皮膚の炎症」と「かゆみ」が影響し合いながら、良くなったり悪くなったりをくり返す疾患です。また、皮膚をかきむしることでさらに皮膚のバリア機能が低下し、「皮膚の炎症」が悪くなるという悪化サイクルを起こします。

悪化サイクル



(*)アトピー性皮膚炎では、体内のTh2細胞などの免疫細胞が増え、免疫細胞が作り出すサイトカインと呼ばれる物質（IL-4、IL-13、IL-31など）の過剰産生が、アトピー性皮膚炎の炎症やかゆみを引き起こしています。

コレクチム軟膏の作用

コレクチム軟膏は薬物療法の外用薬の1つで、外用ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害剤と呼ばれる塗り薬です。

アトピー性皮膚炎の治療に使われているステロイド外用剤や免疫抑制外用剤とは異なる作用機序でアトピー性皮膚炎の症状を和らげる新しいお薬です。アトピー性皮膚炎の病態には、サイトカインと呼ばれる物質が関与しています。サイトカイン（IL-4、IL-13、IL-31など）が、免疫細胞や神経にある「受容体」という受け皿に付くと、JAKなどのシグナル経路が活性化され、炎症やかゆみを引き起こします。

コレクチム軟膏は、皮膚から浸透し、細胞内のJAK経路から伝達される炎症を引き起こすシグナルをブロックすることで、皮膚の炎症やかゆみを抑え、アトピー性皮膚炎を改善します。

